

2024 糸島フォトコンテスト審査評

この度、糸島フォトコンテスト審査を行う事に成り私としては 50 数年前自動車会社の営業マンとして糸島地区を担当していましたので非常に興味深い思いや、また古代からのロマンに満ちた地でどんな写真に出会うか楽しみしておりました。

今回は、西日本写真協会会員の丹生昇一氏と同協会常任委員小林敏夫が糸島市役所にて審査を執り行いました。

「いまの糸島部門」

最優秀賞「戸高 健」さんの(可也夕日)は、見事な撮影手法(ローアングル・露光・絞り・等々)で日没後の残照と彼岸花それと後方の可也山の配置は申し分ない、最優秀賞に最も相応しい作品です。

・優秀賞「中島 賢二」さんの(光の河口)は、いま流行っている光の道が一貴山川河口にて撮影出来て、しかもサンセットの撮影タイミングがピッタリ一致していて神秘的な作品に仕上がっています。

・優秀賞「K子」さんの(Forever Sunset Live)は、正にサンセット時の撮影が良い事に加え女の子達の笑い声が聞こえて来そうな作品です。但し、もう少しこうして発表された方が良いのではと思う点はトリミング等々です。

・優秀賞「三島 健史郎」さんの(収穫祭)は、画面一杯の収穫期を迎えた田んぼと女の子の自慢気な表情が何とも言えない。

・優秀賞「ワタナベヨシユキ」さんの(星降る二見ヶ浦)は、やや長時間露光された事で幻想的な作品に仕上がっています。

・優秀賞「吉村 哲也」さんの(実りの秋)は、最近田んぼアートがあちこちで見受けますがもう少し広角レンズで撮影して欲しかった。

・優秀賞「吉村 まゆみ」さんの(バクチの木)は、木の由来はともかく縦位置撮影をして頂きたかった。

「インスタ部門」

最優秀賞「木村 慎吾」さんの(波間に佇む光の鳥居)は、前景の岩に当たり飛散するしぶきと後方の二見ヶ浦の白い鳥居に掛かる夕日のコラボは素晴らしいとしか言いようが無い。

・優秀賞「TOMO」さんの(夕暮のお花見アイス)は、桜の咲く下で母とお子さんでしょうか、桜と桜の上方からの光芒がこの作品を引き立てて完成度を増しています。

・優秀賞「アオヤマユーキ」さんの(秋の愁)は、秋桜を逆光で撮られた事で透過光が美しい、上方のハレーションは出来れば無いほうが良い。

・優秀賞「山崎 千春」さんの(糸島の秋の朝)は晩秋の田園をより良く表現されています。空を大きく配置された事が空気感を醸して出しています。

・優秀賞「梁井 和樹」さんの(夜を彩る漁船と花火)は、加布里漁港の花火大会でしょうが、前面に陸揚げされた漁船と下面に座り込んで花火を楽しむ人々の姿は、この地でなければ撮る事が出来ない実に興味深い作品です。

・優秀賞「藤谷 啓太」さんの(秋の雷山千如寺大悲王院)は、雷山千如寺の紅葉がまだピークでは無い時期に撮影された事が青紅葉と紅葉したモミジのグラデーションが美しくまた、下方の花手水に生けてある花のコラボも効果的です。

「むかしの糸島部門」

最優秀賞「matsuphoto」さんの(燃える夕陽と命の架け橋)は、正に夕照と言うべき光景です。写真とは出会いを写すと言いますが撮影タイミングや露光等全てが整っています。

<最後に>

「むかしの糸島部門」の応募が少ないようでした。今後の応募を期待します。

西日本写真協会常任委員

(公)福岡県美術協会元専務理事

小林 敏 夫